



## ファンファンパック2019を手にとられたみなさんへ

2018年度より始まった「ファンタジア!ファンタジア!—生き方がかたちになったまち—」(通称:ファンファン)も今年で2年度目を終えました。

墨田区に集まる人々とアーティストや研究者の対話を通して、墨東エリアを“学びの場”に見立て、豊かに生きる方法を探るプロジェクトは、事務局自身がプロジェクトと一緒に作る仲間との対話の方法に悩んだり、プロジェクトの届け方に試行錯誤したりする毎日でした。毎週の定例会は毎回長時間、企画会議には半日を費やして積み重ねてきたプロジェクトの土台は、事務局一人一人の実感を伴う“小さな主語”から語られた言葉によって支えられているのです。

今回みなさんにお届けする「ファンファンパック2019」は、そんな“小さな主語”でプロジェクトについて語った一冊です。事業の記録集とも少し違う、様々な角度からファンファンの“学び”や“対話”を追体験できるようなハウツーや写真、マップをまとめました。

「ファンファンパック2019」に詰まった対話のエッセンスを、みなさんにも楽しく実践していただければ嬉しい限りです。

「ファンタジア!ファンタジア!—生き方がかたちになったまち—」  
ディレクター  
青木彬

ファンファンパック2019に入っているもの

これするとファンファン

生き方がかたちになったまち

記録写真

ファンファンレターの作り方

WANDERING はじめの一歩



## ファンファンが行っているプログラム

### WANDERING



WANDERINGには「ふらふら歩く」や「話が逸れる」という意味があります。墨東エリアの細く曲がりくねった道を散歩するように、その人の過去から現在、そして未来についての対話をしながらその軌跡を、墨田区の白地図の上に落とし込んでいくことで、本人も気が付かなかった発見と一緒に見つけるのが「WANDERING」です。墨東エリアで行なっているユニークな活動については知っていても、その人がこれまでどんなことを考えていたのか、墨田区以外ではどんなことをしているのか、その人自身の背景についてはまだまだ知らないことがたくさんありました。「WANDERING」は、一枚の白地図を囲んでその人自身へ向き合う小さな対話の入り口でもあります。

### ラーニング・ラボ

個人々との小さな対話から新たな気づきを得ることを目指すプログラムが「WANDERING」でした。そこからもう少し対話の輪を広げて、ゲストや参加者との交流を生み出す場が「ラーニング・ラボ」です。「ラーニング・ラボ」では毎回アーティストや研究者をゲストに招いたレクチャーはもちろん、聞き手となるフロアゲストとの化学反応も見どころのひとつ。そしてレクチャーを聞くだけでなく、毎回テーマについての疑問や関心を持ち寄りグループディスカッションも行っています。初めて出会った参加者とレクチャーを糸口に気軽に話ることができるディスカッションでは、ひとつの答えを目指さないからこそできるお話がたくさん生まれました。



### プラクティス

「ラーニング・ラボ」のゲストやフロアゲストとの出会いをきっかけに、そこで生まれたアイデアを、墨東エリアで実践的な活動に展開したものが「プラクティス」です。2019年度から始まった本プログラムでは、関川航平による『まぶたのうらの踊り』、佐藤史治+原口寛子による『ゆびのかたりて』、佐藤研吾とたもんじ交流農園による『藝術耕作所』を行いました。

### ファンファンレター

プロジェクトの情報発信はもちろん、墨東エリアの学級新聞のような存在を目指して始まったのが「ファンファンレター」。

紙面の編集を通じて、「ファンファン」の大切なテーマである対話を生み出すために、ほとんどを手作業で行う仕組みを作り出しました。ハサミとノリとスタンプを使って複数人で共同作業ができるのが「ファンファンレター」の楽しみのひとつ。現在は地域の人々によって構成される「ファンファン倶楽部」のメンバーが中心となって制作を行っています。

墨東エリアのカフェなどで配布しているほか、「ファンファン」のFacebookページでもご覧いただけます。



プログラムの詳細は

こちらのWEBサイトをご覧ください。

<http://fantasiafantasia.jp/>



【ファンタジア!ファンタジア!事務局】

青木彬(ディレクター)、ヨネザワエリカ(企画・広報)、遠藤純一郎(企画・制作)、磯野玲奈(広報)

【これまでのプログラムにご参加いただいたゲストのみなさま】

佐藤研吾、深海菊絵、今井むつみ、加納土、オルズ、関川航平、佐藤史治+原口寛子、  
牛久光次(たもんじ交流農園)、中西てい子(たもんじ交流農園)、岩本友理(墨田長屋)、高田洋三(sheepstudio)

発行日：2020年3月22日

発行者：公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

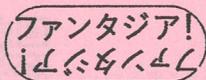
発行所：東京都千代田区九段北4丁目1-28 九段ファーストプレイス8階

編集：デザイン:ファンタジア!ファンタジア!事務局

「ファンタジア!ファンタジア!—生き方がかたちになったまち—」

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、一般社団法人うれしい予感

※本事業は「東京アートポイント計画」として実施しています。

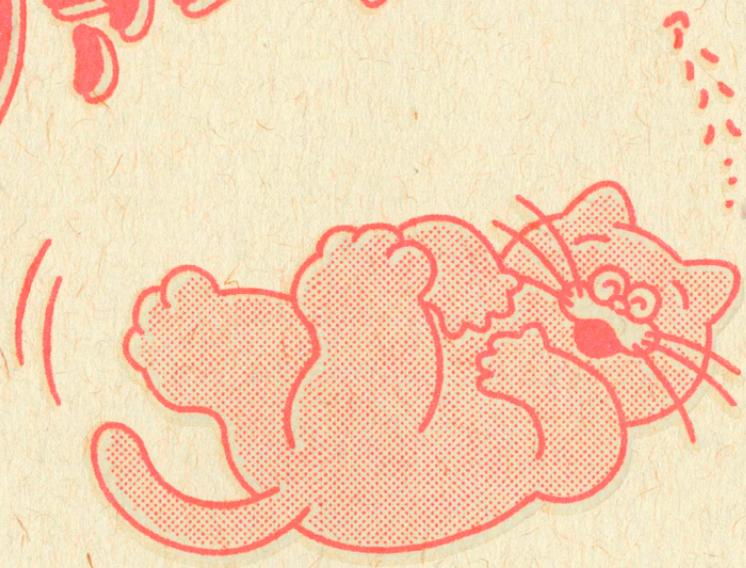


ファンタジア!  
いふふふふふ

つわ  
こ

すると

フアンフアン!



## ファンタジア！ファンタジア！

「これするとファンファン」は、「ファンタジア！ファンタジア！—生き方がかたちになったまち—」（通称：ファンファン）の活動が始まって約2年の間に事務局が意識してきたプロジェクトを支えるエッセンスを紹介するものです。

そもそもファンファンは、これまで当たり前だと思っていた考えを解きほぐす“対話”を生み出し、地域の文化資源の活用から“学びの場”を創出することを目指して始めました。他者との対話によって新たな気づきを得る体験は、今までの自分が変わってしまう瞬間でもあります。自分の当たり前を変えることは少し勇気のいることかもしれませんが、しかし、ひとつの正解を見つけるのではなく、絶えず自分の想像の限界を更新することこそ大切な“学び”なのではないでしょうか。

墨東エリアでは長年アートやまちづくりを通して地域コミュニティはゆっくりと育まれ、既にユニークな活動をする人々がたくさんいます。“墨東らしさ”が定着する一方で、ファンファンを企画・運営しながら、このまちや人々にとってこれから必要になるアートやコミュニティとはどんなものだろうかと考えていました。それを考え、実現していくためには、プロジェクトの中核を担う事務局自身の当たり前を解きほぐさないとはいけません。そう考えたファンファンでは、定例会議のやり方や、普段のコミュニケーション、プロジェクトのアンケート用紙のデザインまで、様々なところに対話を生み出す余地が無いか頭をひねることになりました。

ここに紹介されているエッセンスは、プロジェクトを成功に導くためというよりも、ファンファンの事務局をはじめ、関わる人々がプロジェクトを楽しむためのちょっとした工夫の断片です。きっとそれは特別なことではないかもしれないけれど、気がつくにつれ、今までの当たり前に頼ってしまいそうなるのを、ちょっとだけ足止めしてくれる一言でもあります。

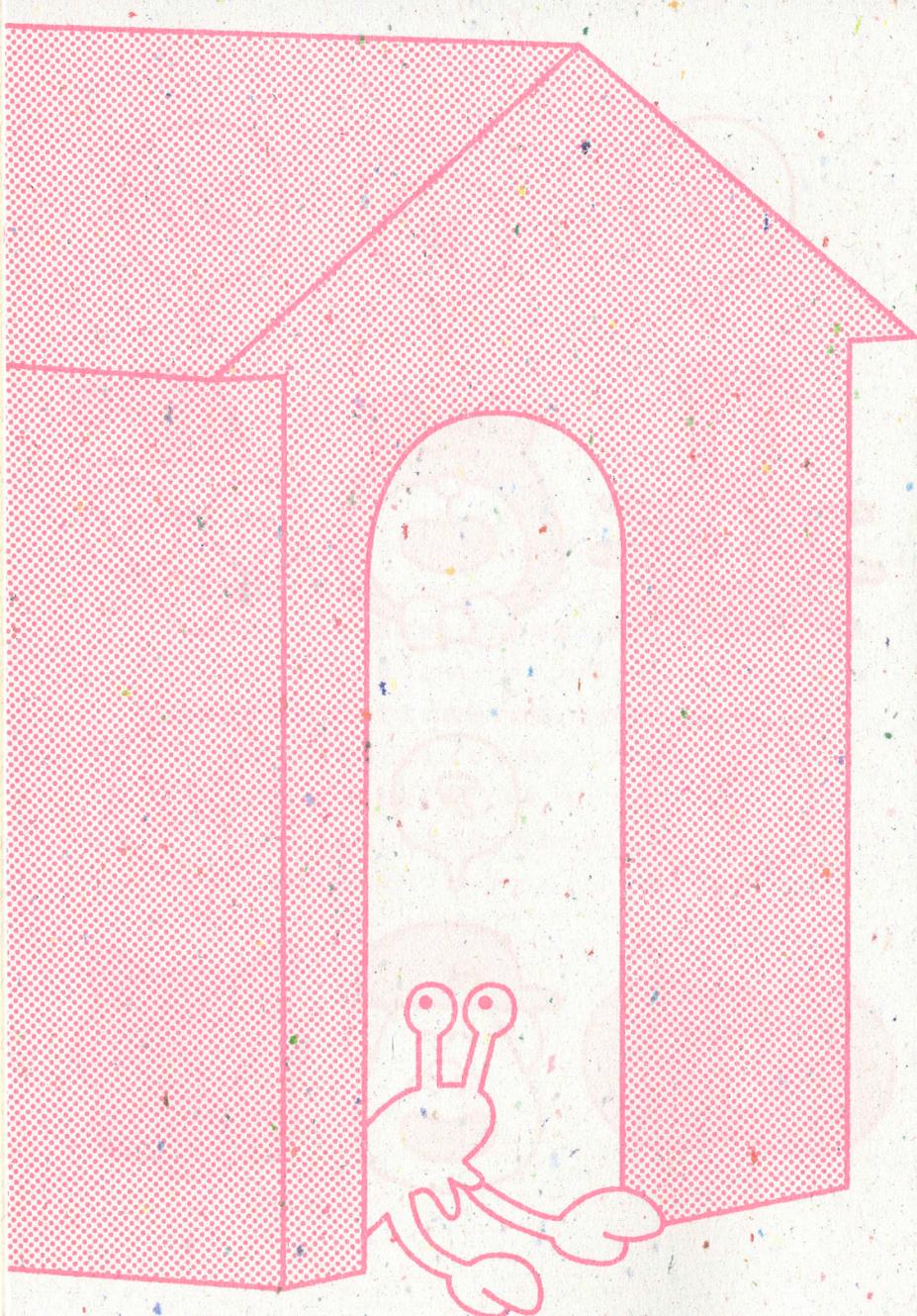
何か物事が立ち上がる時、ちょっと最近楽しくないかもとうつぶしてしまったり、この本をバラバラとめくってみてください。ちよつぱり楽しいことが動き出すかもしれません。

「これするとファンファン」、管読するだけでも楽しい一冊ができました。

## 声に出すと楽しい

「ファンタジア!ファンタジア!」略して「ファンファン」。  
広報紙の名前は「ファンファンレター」、それを作る集まりが「ファンファン倶楽部」、2019年度の拠点お披露目イベントのタイトルは「よ〜い!ファンファン!」。事務局の定例会で、街角で人に説明する時、この原稿を読んでいる今、口にするとなさくなるプロジェクト名は、関わる人たちの体も解きほくしてくれる。そして自然とファンファンらしさを感じ取る五感が育まれたんじゃないだろうか。今度はどんな「ファンファン〇〇」が生まれるだろうか。





## ちょうど良い大きさを感じる

プロジェクトの拠点を見つけるのは難しい。体の動きや声の伝わり方、人が集まった時の動きやすさとか距離感。やりたいことの規模を考えると、大きければ大きいほどいいわけじゃない。

ファンファンが2019年度の拠点としていた墨田区京島にあるsheepStudioは、ファンファンの体にちょうどよい大きさだった。メンバーとはとても長い時間をかけてやりたいことを共有していたから、「これくらいのサイズがいいよね」という感じがふわりと共有できていた。ちょうどよい大きさを感じるって楽しい。

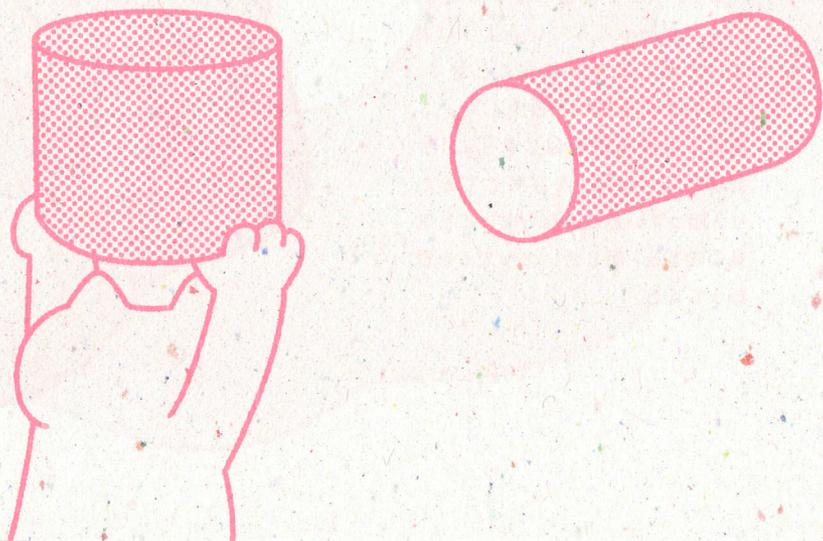
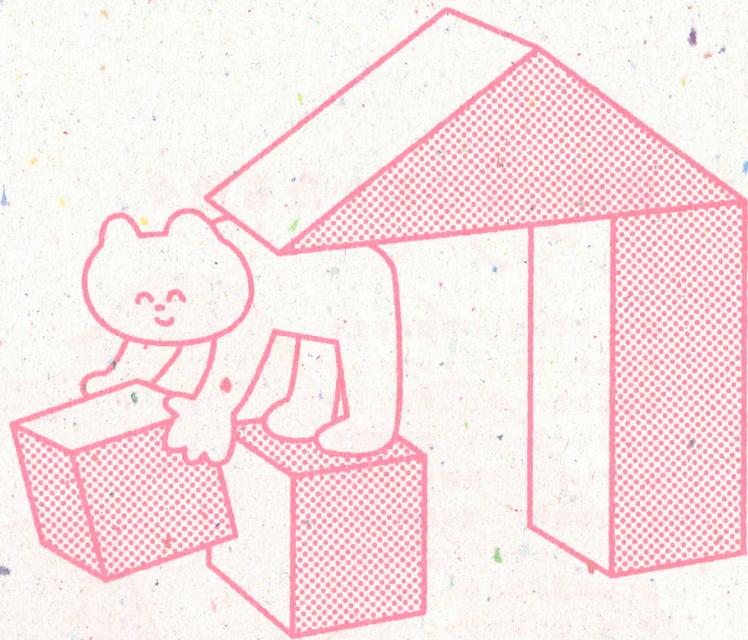


## 徐々につくる

拠点を見つけたけど、プロジェクトを進めていくには足りないものがたくさんある。ここに棚が欲しい。あっちには案内表示が必要だ。

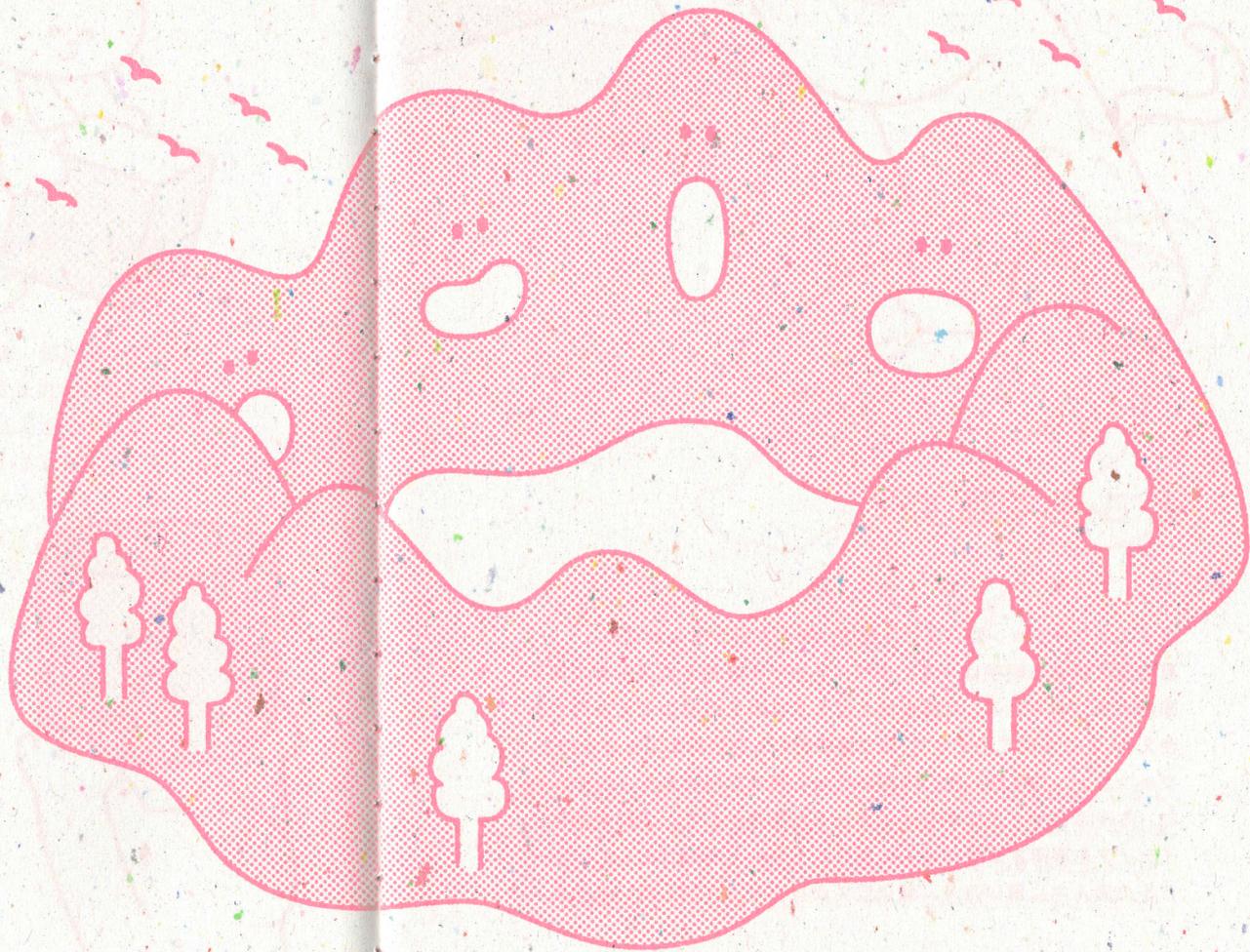
でも、最初から全部無かったって大丈夫。墨東エリアで拠点とする木造長屋のsheepstudioにはのんびりした空気感が溢れていて、足りないものはみんなて少しずつつくっていけばいいよと言ってくれているみたい。

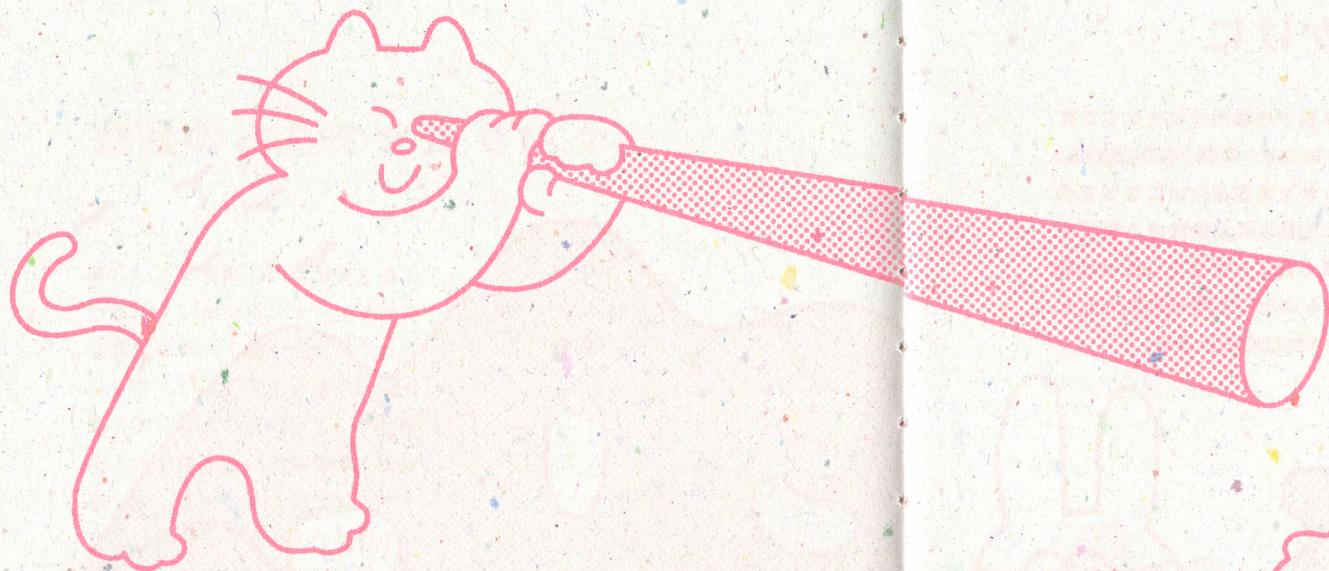
今ではあの時は無かったものがたくさんある。Eくんがつくってくれた暖簾、Tさんがつくってくれた本棚、Hさんが持って生きてくれた手作りガーランド、Iさんが描いてくれた看板。今度は何をつくらうか。



## 会議のはじめかたも色々

楽しいことは楽しい会議から生まれるはず。だからファンファンの会議はなるべく楽しくすることを心がけている。でも、顔も趣味も知っている人との会議も、初対面の人との会議も、実は同じくらい難しい。きっとそのプロジェクトらしい会議のはじめかたがあるはず。例えばファンファンでは「最近始めたこと」「長く続けていること」「よく使う道具」という3種類のカードにそれぞれの回答を書いて、テーブルに出し合ってみた。カードゲームをしているようにお互いの関心を共有することから、企画の糸口を探ったりもした。他にも定例会議のはじめに「今日の気分と体調」を共有してみたり、知っている人の知らないことを見つけると、話し合いのリズムも変わってくる。





## どこ見て話す？

コミュニケーションは、どこを見ているかが肝かもしれない。目を見て話せる相手は一人。ホワイトボードを使えばみんなで同じ事柄を見つめられる。付箋を使えばまずは自分自身の考えと見つけ合える。どこを見て話すかで、話は直線的にも放射線的にもなるのだ。ファンファンでは話したい内容によって色々な視線を生み出すために、ちゃぶ台サイズのホワイトボードを手作りした。企画会議やアイデアを整理する時にはこのホワイトボードを取り出して、テーブルの真ん中に置いたり、壁に立てかけたりして話し合いをする。



言葉で伝わらないことはイラストで気持ちを伝えることもできるし、手を動かしていると突然プロジェクトの突破口が見つかることもある。コミュニケーションが明後日の方向に向かってしまわないために、まずは身近な相手との話し方について考えてみることから始めた。

## 食べることをきっかけに

美味しいご飯をみんなで食べると「美味しい」話だけじゃなくて食材とかお店の内装や料理内容から普段しないような話が盛り上がる。会議にそれぞれお菓子を持ち寄るとプレゼン大会みたいになってくる。街のリサーチのためにも、食事はその街の個人経営のご飯屋さんへ足を運んでみる。「あのお店に行きましたよ」なんて、新しいお店を開拓するのも会話のきっかけになるものだ。お腹を満たすことの中にも、コミュニケーションのきっかけがたくさんある。

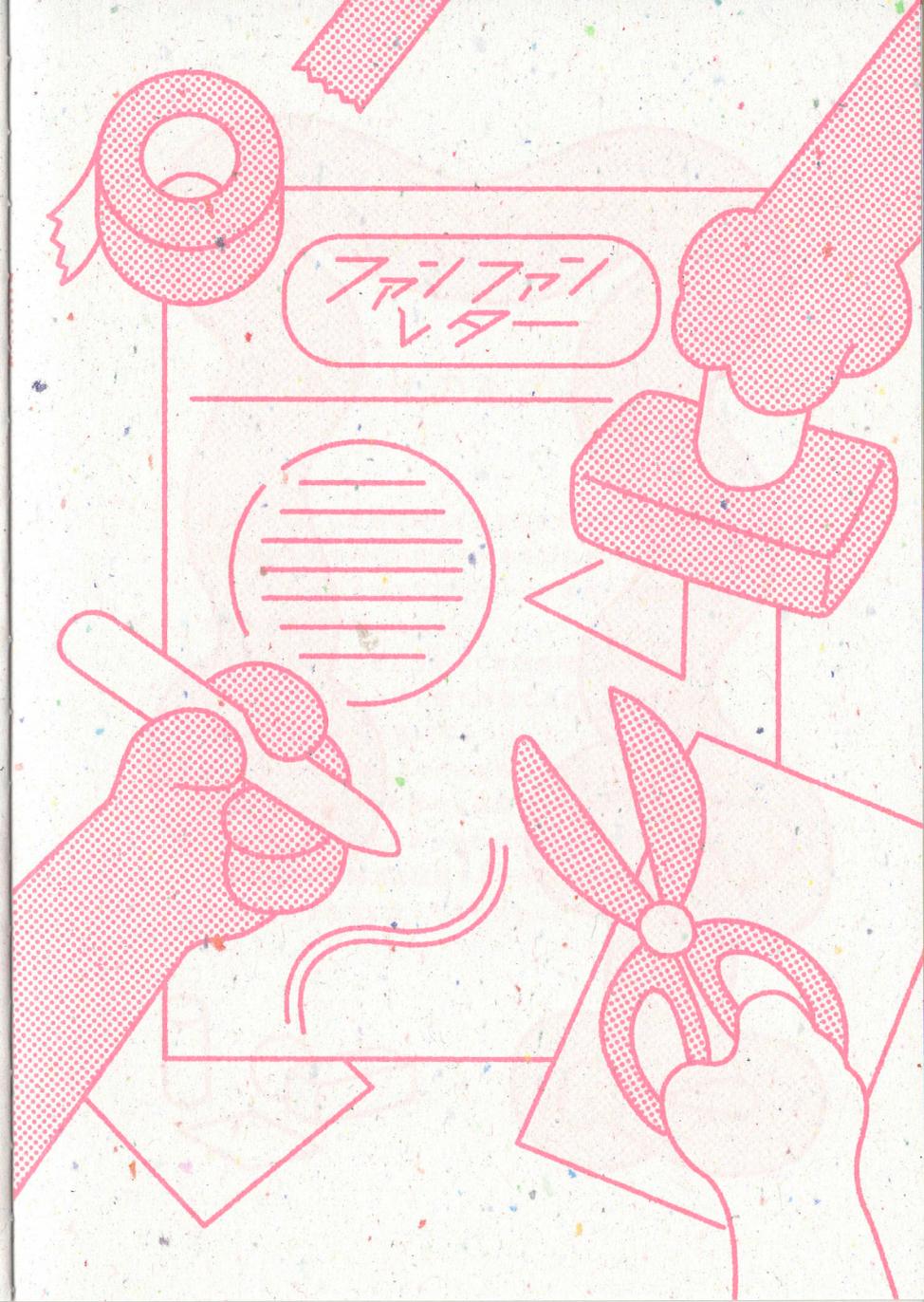
## 雑談する

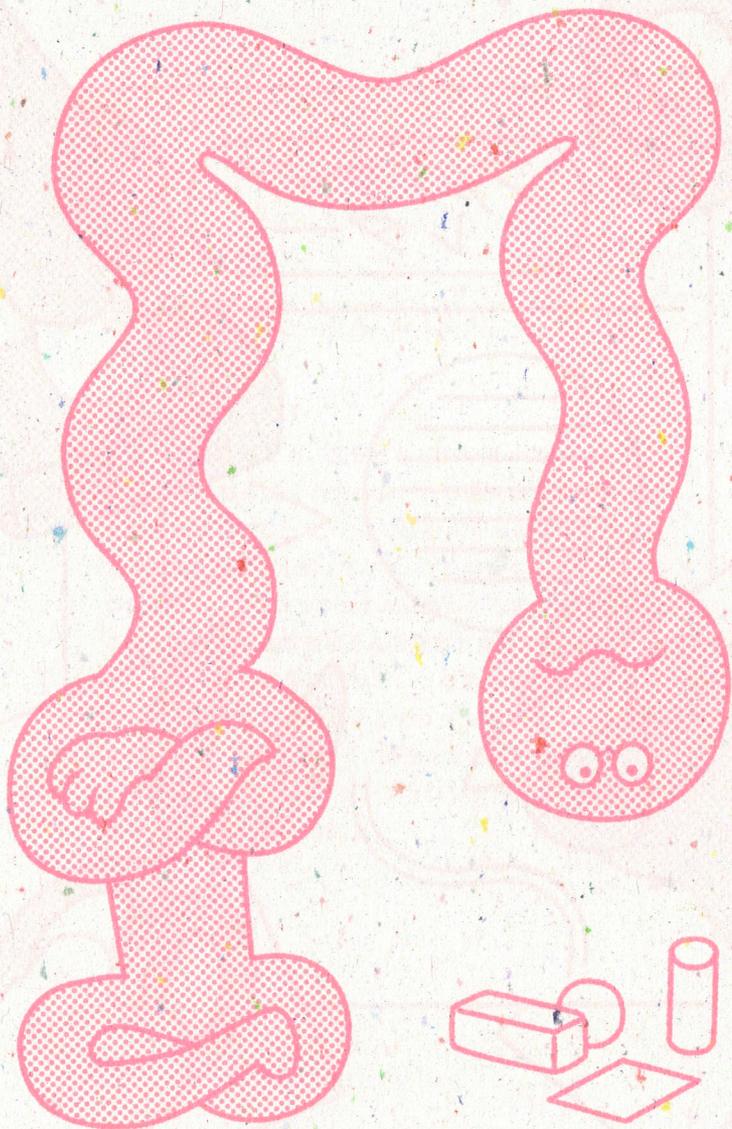
ファンファンでは雑談で盛り上がるのも重要な活動。なぜなら雑談は事務局のメンバーそれぞれの人柄が見えてきたり、プロジェクトを進めるリズム感が育まれたり、ときには企画のアイデアも生まれたりするからだ。良い雑談をするための秘密がある。例えば事務的なやりとりをする連絡ツール上に、気になった記事やイベントの情報を共有する“FYI” (For Your Information の略) というスレッドを作ってみた。そんな簡単な仕組みだけで、雑談の質も上がったりするから面白い。



## 手作業だっていい

ちょっと不恰好でも、自分たちで作ったっていいんだということを教えてくれたのは、この墨東エリアだ。長屋を個性的にDIYしたり、ここに住む人たちは生活を楽しむ工夫をたくさん知っている。プロジェクトを進める時、つい何でもプロフェッショナルに頼ってしまいがちになることもある。でも本当はそんな決まりなんてない。プロジェクトの広報紙だって、プロのデザイナーが専用のソフトを使えばかっこよくデザインができるかもしれない。でも、誰かに任せず、自分たちの手を動かして作ったって楽しいはず。「ファンファンレター」はそんなDIY精神からつくられたものだ。





## ありあわせのもので

墨東エリアには生活を楽しくする工夫があちこちにある。手間暇をかけて作られたものもあるけれど、身近な素材やありあわせのものでプリコラーシュされた空間はこのまらの雰囲気にとったりだ。

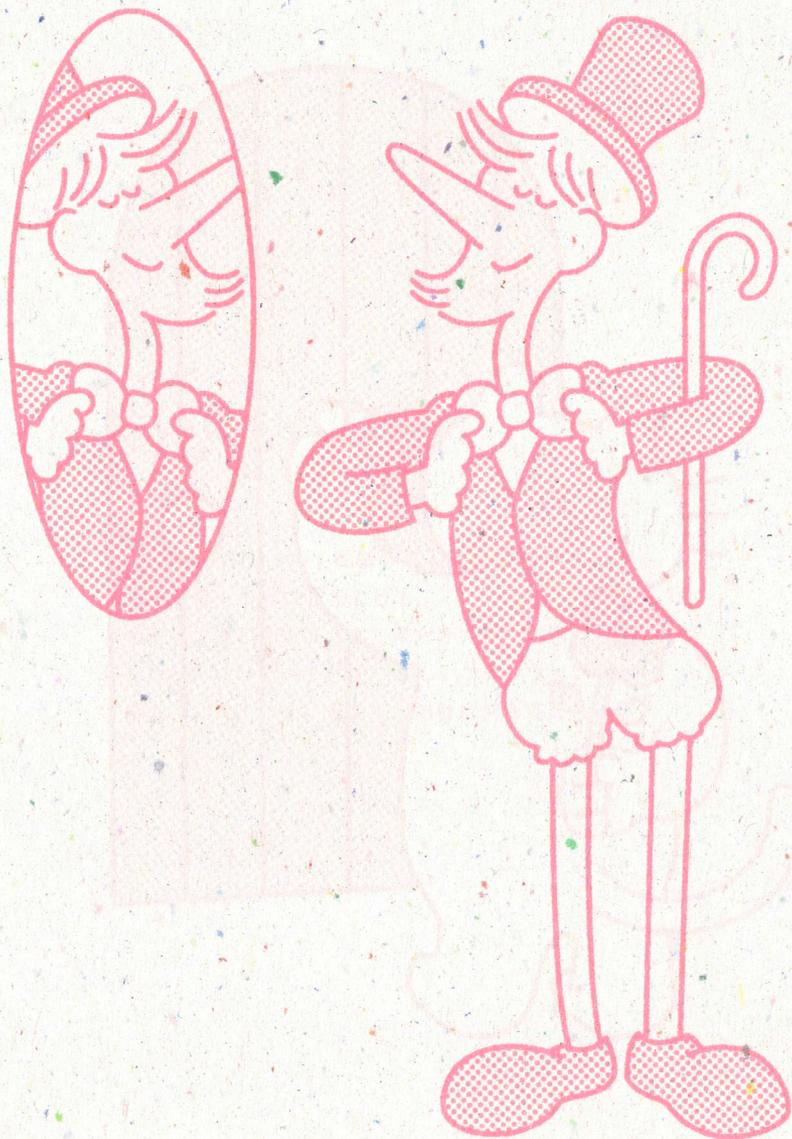
そして今あるものをどうやって有効活用するかを考えることは想像力をとっても使う作業である。拠点を装飾する看板やアンケート回収ボックス、「ファンファン倶楽部」メンバーのお気に入りの本を持ち寄った「ファンファン図書室」も、辺りを見渡せば活用できるものがあることに気がついたからだ。ありあわせのもので生まれる工夫は墨東エリアの魅力を理解する一歩かもしれない。ここは生き方がかたちになったまちだから。

## 会いに行く口実

「ファンファンレター」を置いてもらいに近所のカフェやギャラリーや宿に足をむける。

2週間に1度の頻度を「また来だか」なんて思う人はこのあたりにはいないけれど、「新しいファンファンレターができました」という口実があれば何も怖くない。





## 雰囲気づくりは 最後まで

ある日の会議でこんな話があった。「とても楽しいイベントだったのに最後にA4の白いアンケートを配られて楽しさが薄れた」と。せっかくのイベントも、アンケート用意一枚に左右されてしまうこともある。だからファンファンでは紙質や形状、回収の仕方も楽しくなるようなアンケート作りに取り掛かった。その場を演出するこだわりは、最後まで気を抜かない。まずは事務局の「当たり前」を疑ってみると、楽しくできることは結構たくさんあることに気がつく。

## 居ることからはじまる

「ファンファンレター」を作ったり、ただのんびり過ごせる場所として sheepstudio を地域に解放する「ファンファン倶楽部」を毎週1回続けてきた。ただ扉を開けているだけで自然と人が入ってくる。近所のカフェで「ファンファンレター」を手にした人が何の前触れもなく訪れてきたり、目の前のバス停でバスを待っている人がふらりと入ってきたり、飲食店だと思って迷い込んできた人もいた。きっと、ただそこに居ることが大切なんだ。誰かがそこに居るだけで、その場所は自然と動き出す。あなたと私、「ファンファン」はその小さな対話から生まれてきたんだ。



発行日：2020年3月22日

発行者：公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

発行所：東京都千代田区九段北4丁目1-2日 九段ファーストプレイス 8階

編集：ファンタジア！ファンタジア！事務局

イラスト/デザイン：関川航平

執筆者：青木彬、ヨネザワエリカ

「ファンタジア！ファンタジア！—生き方がかたちになったまち—」

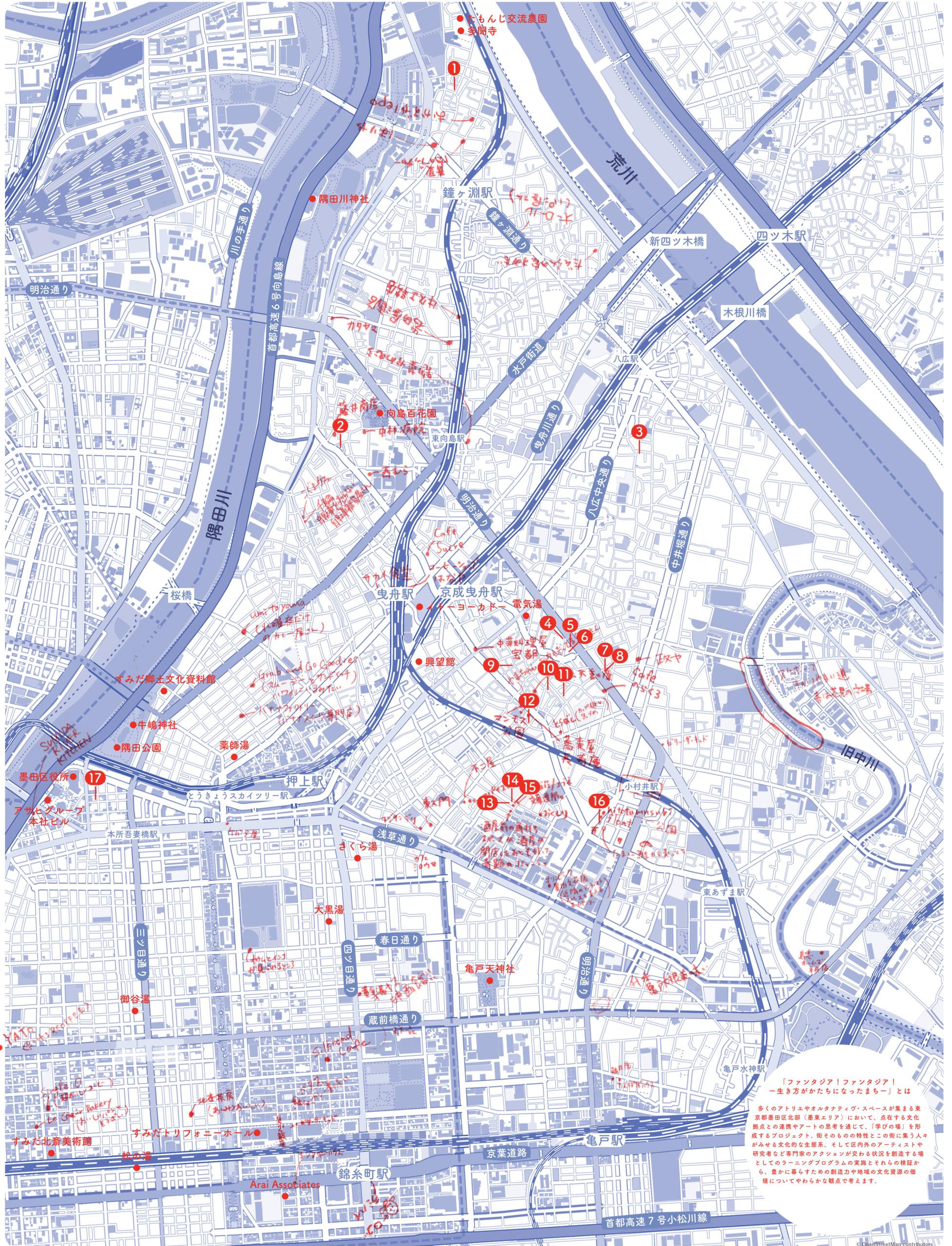
主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、  
一般社団法人うれしい予感

※本事業は「東京アートポイント計画」として実施しています。

ファンタジア!  
いふはふし



# 生き方が かたちになったまち



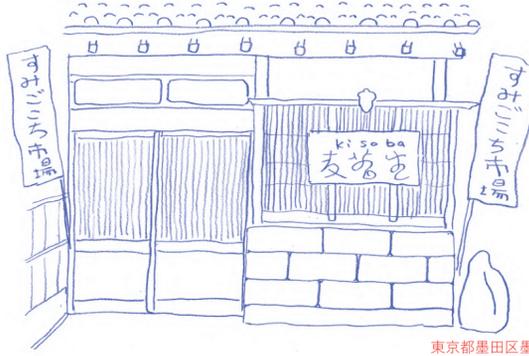
「ファンタジア！ファンタジア！  
—生き方がかたちになったまち—」とは

多くのアトリエやオルタナティブ・スペースが集まる東京都墨田区北部（墨東エリア）において、点在する文化拠点との連携やアート・思考を通じて、「学びの場」を形成するプロジェクト。街そのものの特性とこの街に集う人々がみせる文化的な生態系、そして区内外のアーティストや研究者など専門家のアクションが交わる状況を創造する場としてのラーニングプログラムの実施とそれらの検証から、豊かに暮らすための創造力や地域の文化資源の価値についてやわらかな観点で考えます。

東京都墨田区北部（以下：墨東エリア）は、2000年代初頭の住民主導のアートプロジェクトなどがきっかけとなり、現在では多くのアトリエやオルタナティブ・スペースが集まる地域となっています。近年では大学誘致、耐震対策、駅前開発といった街の変化も目立つようになってきましたが、墨東エリアはこうした状況に対して、大きな計画と地域の文化資源の接触に対して独特のテンポ、丁寧さを保ってきました。

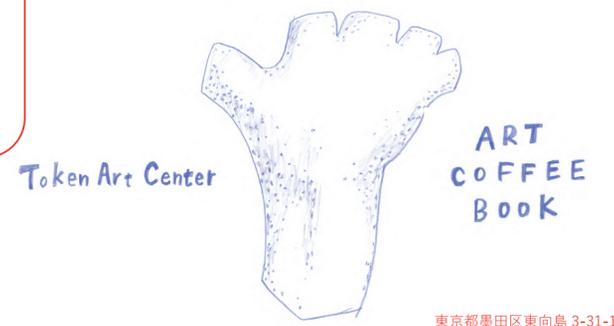
この「生き方がかたちになったまち」では、「ファンタジア！ファンタジア！」のプログラムに関わってくれた方、プロジェクトの定期刊行物のファンファンレターが読めるスペースの運営者のみなさんに、自身のスペースを象徴するスケッチと、この街のおすすめスポットをマップに落とし込んでもらいました。

### 1 kisoba



東京都墨田区墨田 5-7-6  
WEB: <https://kisoba.tokyo>

### 2 token Art Center



東京都墨田区東向島 3-31-14  
WEB: <http://token-artcenter.com/>  
SNS: <https://www.facebook.com/TokenArtCenter/>

### 3 yahiro8



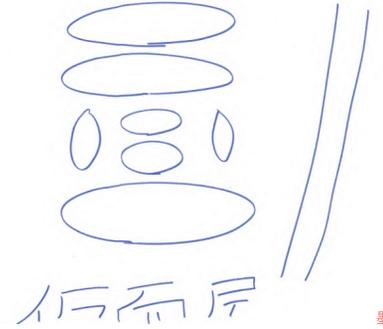
墨田区八広 4-10-1  
WEB: <http://yahiro8.seesaa.net>

### 4 爬虫類館分館



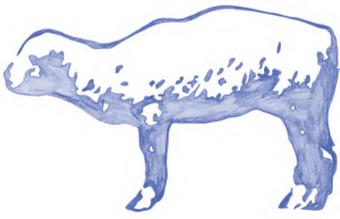
東京都墨田区京島 3-17-7  
WEB: <http://www.bunkan.com/blog/>

### 5 仮面屋おもて



墨田区京島 3-20-5  
WEB: [kamenyaomote.com](http://kamenyaomote.com)

### 6 sheepstudio



sheepstudio

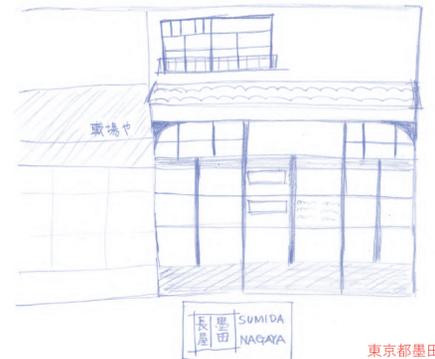
東京都 墨田区 京島 3-20-9  
<http://www.sheepphoto.com/studio.html>  
SNS: <https://www.facebook.com/sheepstudio2016>

### 7 torinos



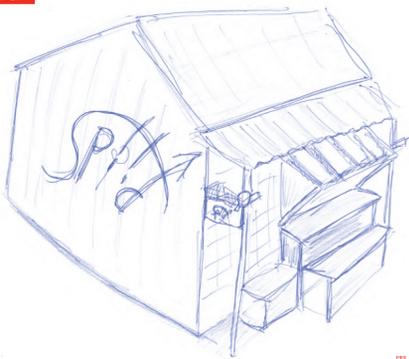
東京都墨田区八広 2-47-14  
SNS: <https://www.facebook.com/torinosbakery>

### 8 墨田長屋



東京都墨田区八広 2-47-14  
WEB: <https://sumidanagaya.com/>

### 9 spiid



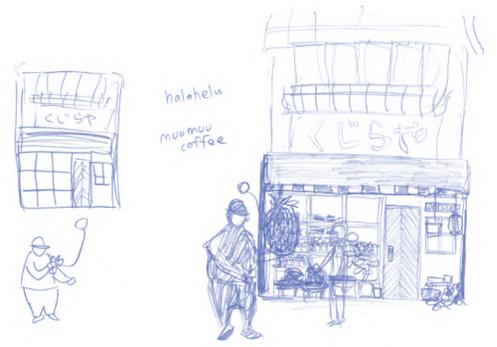
墨田区京島 3-30-6  
SNS: <https://www.facebook.com/spiidsumida>

### 10 サテライトキッチン



東京都墨田区京島 3-48-3  
SNS: <https://stllt.tumblr.com/>

### 11 halahelu



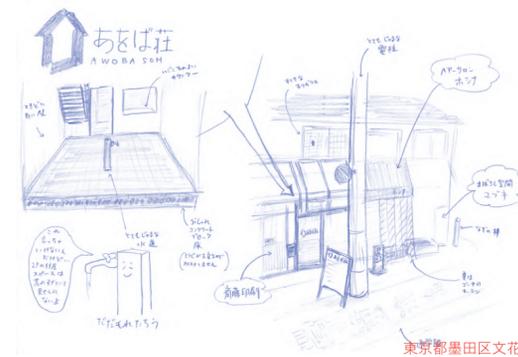
東京都墨田区京島 3-50-14  
SNS: <https://www.facebook.com/halahelu>

### 12 gallery TOWED



東京都墨田区京島 2-24-8  
WEB: <https://gallery-towed.com/>

### 13 あをば荘



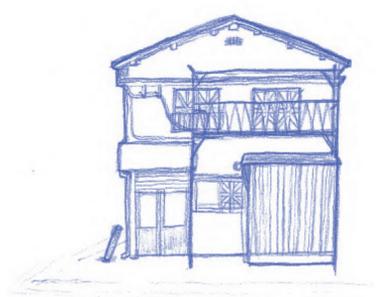
東京都墨田区文花 1-12-12  
WEB: <http://awobasoh.com>

### 14 文化連邦



東京都墨田区文花 1-12-10  
WEB: <http://bunkaunion.com>

### 15 まぼろし空間ユブネ



東京都墨田区文花 1-12-12  
SNS: [https://twitter.com/ubune\\_maboroshi](https://twitter.com/ubune_maboroshi)

### 16 float



東京都墨田区文花 2-6-3 1F  
WEB: <http://f-l-o-a-t.info/>

### 17 喫茶野ざらし



東京都墨田区吾妻橋 2-11-5  
SNS: [https://twitter.com/cafe\\_nozarashi](https://twitter.com/cafe_nozarashi)



### はじめましての前のファンファンレター

ファンファンレターはその場に居合わせた人もいきなり一緒に作ることができる。この日はプラクティス「ゆびのかたりて」が終わった後に参加者の方からプラクティスの感想を集めて、みんなで即興的に作り上げた。切る、貼る、スタンプを押す。どれも単純な作業だけど、手を動かしてみると新しいアイデアがふつつつと湧いてくる。自己紹介なんかしていないけど、みんなで一枚のファンファンレターを作っていると、自然とおしゃべりにも花が咲く。(青木)

2019年8月25日 ファンファンレター制作



ファンブック  
vol. 1

ファンブック vol. 1  
ファンブック vol. 1  
ファンブック vol. 1  
ファンブック vol. 1

ファンブック vol. 1  
ファンブック vol. 1  
ファンブック vol. 1  
ファンブック vol. 1

ファンブック vol. 1  
ファンブック vol. 1  
ファンブック vol. 1  
ファンブック vol. 1

ファンファンレターはいつも偶然に…

Vol.15は、当時、レジデンス企画で招聘していたアーティスト・コレクティブ「オル太」の井上徹さんが飛び入り参加してくれた。井上さんが墨田に初めて来た日に発見したスタンドプレー\*の絵（飛び出し注意の看板）も描いてくれた。その場に居合わせた人がコラボレーションしたとき、想定していなかった面白い紙面が出来上がる。（磯野）

\*スタンドプレーは、都市と身体の間を考察するオル太による作品。

2019年11月9日 ファンファンレター制作



## 共有しあうレクチャーの感想

今この地域の生活に必要となっている、これから必要となるであろう学びについて、アートや教育、まちづくりなど様々な分野の研究者やアーティストをゲストに招いて考える「ラーニング・ラボ」。1時間のレクチャーをそのままに帰るんじゃなく、その場に居合わせた人たちでディスカッションできたのがい。ストーブがいらないくらいの熱量があったと思う。言い過ぎかもしれないけど。(ヨネザワ)

2019年2月9日   ラーニング・ラボ #01   ものづくりによって生まれる共同体   ゲスト：佐藤研吾



## 手に取れる色んな「伝え方」

ファンファンではプログラムに合わせて色々な印刷物を作ってきた。イベントの雰囲気最後まで壊さないで、みんなが回答したくなるアンケートはつくれないかと考えて出来上がった細長いアンケート。初対面の人と集まった時のアイデア出しが少しでも円滑になればと思い作った「藝術耕作所」のミーティングで使用したカード。どれもみんなの「伝え方」が形になったものたちだ。自分たちで大切に作ったものは、自分たちの言葉で大切に誰かに伝えることができる。（青木）

ファンファンで活用してきたアイテムたち



## 視覚と言葉の解像度

「机の上で起こっていることを記述する」というお題から始まったこのプラクティス。果たして机の上では何が起こっているのか？ペットボトルや筆記用具、机の上にあるものの位置関係を克明に記述する人もいれば、ペットボトルに滴る水滴や机に降り注ぐ光や風を見つける人もいる。それぞれの物を見る倍率も、記述する言葉の抽象度も様々だ。ひとつの状況を捉えているのに、それぞれが見ている現実はこんなに違うものなんだ。（青木）

2019年7月27日    プラクティス #01    まぶたのうらの踊り    講師：関川航平



## 他人の視線を書く

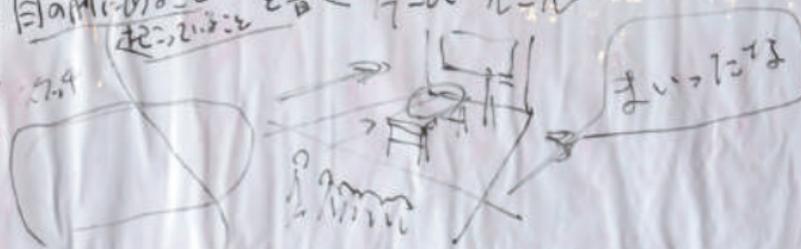
10分間の出来事を自分の視線ではなくて、他人の視線を想像して書いた。10分間、指定された他人の動きや目線を気にしながら、見られている自分の振る舞いも意識する。各々の視線が交錯した奇妙な時間の後に待ち構える記述の時間。思い返すと記述の時間は他人の視線を無責任に追体験できて楽しかったような気がする。「そんなところ見てたっけ。自分でも覚えていない。」客観と主観のズレはあって当然。そのズレの内容は想像の外から来てくれた。(ヨネザワ)

2019年8月3日    プラクティス #01    まぶたのうらの踊り    講師：関川航平

1日目

- 目の前にあるものを書くルール

- ✓ 2.9
- 



まっすぐに描くというルール

2日目

- 何をどう描くかについて考える

◦ 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10.

◦ 3. 4. 7. 11



◦ 矢張り

- 短い言葉(の表現)
- 短い言葉(の表現)

- 今までの描き方
- 文章を書くときの
- 風景描写

- 為視点
- 人物

2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20.

## 体験した「!!」を言葉で掬う

ワークショップ最終日の3日目から初参加。前回は休みだった人も多かったそうで、この日やることは計画のままというわけにはいかなかった。だからこそなのか、関川さんが考えていることに、生のまま触れられたような時間だった。

自分が今まで「グッときたこと」について文章を書いた。自分の感じた感動をそのまま相手に伝えることは決してできないけど、それでも必死で掬いとりようとする面白さ。その行為そのものに、この時「グッ」と来た。(遠藤)

2019年8月10日    プラクティス #01    まぶたのうらの踊り    講師：関川航平



## 物語を作って繋げる

参加者が各々の夏の思い出を5W1Hに沿って物語にする。その後半部分を他の参加者のものと交換してみると、日常の物語が思いがけない展開へと転がってゆく。日常をいつもとちょっと違った視点から見た瞬間に面白さを感じた。そういえば、初めてアートが面白いと思ったのはこういう瞬間だったな。(磯野)

2019年8月25日    プラクティス #02    ゆびのかたりて    講師：佐藤史治+原口寛子



## 何に語らせるか

正面に座った人と自分との体験を組み合わせた不可思議な物語。それに対して、場面を表す絵を書くわけではなく、それを語らせるための指人形を作る。なんでもありなんだけど、花火の話が出てきたから、花火をイメージした髪の毛のようなものをつけてみた。お腹が痛いという話から腹巻を巻いてみた。これまた不可思議な指人形が生まれた。(遠藤)

2019年8月25日    プラクティス #02    ゆびのかたりて    講師：佐藤史治+原口寛子



指で語る。語る指を見る。

佐藤原口お手製のスタジオにもぐりこみ指人形をステージに立たせる。物語を覚えていないから原稿を読みながら指を動かすことになる。結果、指が私の意志を離れて動くこともあれば、指を動かすことに気をとられて原稿にない言葉話すこともある。語っているのは自分なのか、物語の一部である他者なのか、それとも指人形なのか。誰が語っているのかわからなくなる時もあったが、とにかく親近感だけは強くなった。指人形に対しても、物語に対しても。(ヨネザワ)

2019年8月25日 プラクティス #02 ゆびのかたりて 講師：佐藤史治+原口寛子



わからないまま一緒に進む

ろうけつ染めをするべく、蜜蝋で絵を書く日。蜜蝋を湯煎で解かすところからスタートしようと言っていたが、佐藤さんの持ってきたものは、まさに“蜂の巣”。死んだ蜂も混ざっている。最終的にはイメージ通りの蜜蝋になったが、最初布に塗ったものは、ほぼはちみつだったことがあとからわかった。私はそれを漉すのに使ったザルをひたすら洗った。(遠藤)

2020年1月11日    プラクティス #03    藝術耕作所    企画パートナー：佐藤研吾、牛久光次



## 「場所をつなぐ」その第一歩

藝術耕作所の有志メンバーで佐藤研吾さんが活動している福島県大玉村へ。地元の方に染め方を教わりながら、藍染を体験した。藍甕の中で布に藍を染み込ませ、手が凍てつくような水槽の中で布をさらう工程を繰り返すこと7回。布は淡い藍色になった。墨田区で蜜蝋を塗り、大玉村で藍染したこの布は、また墨田区に戻ってきてプログラムで使用される。この布が、今後どのように形を変え、どんな場所で使われてゆくのか、楽しみだ。(磯野)

2020年2月1日    プラクティス #03  藝術耕作所    企画パートナー：佐藤研吾、牛久光次



## 染めあげ縫いあげる、つながりのきっかけ

たもんじ交流農園で大玉村から持ち帰った藍の乾燥葉を茹でた。準備していた「ガムテープ染め(ガムテープを裏表から貼って文字を作る)」を仕上げるために。煮汁にハイドロという粉を混ぜて、染液の完成。液体に浸した布が空気にさらされると青くなる。藝術耕作所メンバーのそれぞれの活動や場所の名前がきれいに浮かび上がった。日を改めて、独特な風合いで染まった布をのぼり旗や暖簾に仕上げた私たちは今後この藍色を見かけるたびに今回の共同作業を思い出すと思う。(ヨネザワ)

2020年2月23日    プラクティス #03    藝術耕作所    企画パートナー：佐藤研吾、牛久光次

# ファンファン レター

ファンタジア!  
♪♪♪♪♪

## レターの作り方号

これ、手作業で作ってます。

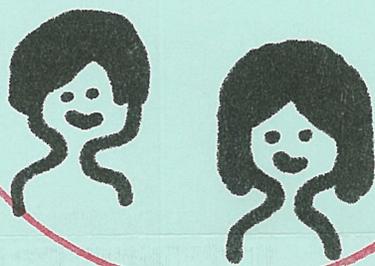
### ファンファンレターの 作り方

#### 1 原稿を集める

プロジェクト事務局からのお知らせや、街の人が書いた「コメント」を集める。

#### 2 みんなで集まる

毎月2回、予め決めた日時にみんなで集まる。



ファンファンの活動で大切にしていることのひとつが「集まること」です。1人では思いつかないアイデアをどうやってプロジェクトに関わる人々と作り上げることができるか、そしてそれをより楽しみながら実行する方法はどのようなものかを探っています。そのためにはまず、「こうしなくちゃいけない」という固定観念を解きほぐすことが必要になります。例えば効率化のための役割分担。プロジェクトの印刷物はパソコンを使いこなすデザイナーだけが行わないといけないのだろうか？もっとみんなで手作りする方法はないだろうか？

そんなことを考える中でファンファンレターは、地域の人の声やアイデアを素早く発信し、ファンファンの活動を楽しく伝えていくコミュニケーションツールとして生まれました。

レイアウトや装飾を考える時にはみんなで意見を出し合い、誰かの思いつきで思わぬものが出来上がることもありました。一方で手作業での切り貼りは単純だから特別な技術も必要とせず、その場に居合わせた人が気軽に参加することができます。

本紙では、情報収集から印刷まで、ファンファンレターの作り方をみなさんにお届けします！

#### 3 レイアウトを決める

内容に合わせてどんな配置にするか、はんこを押したりしながら考える。

はんこは全部6種類  
○□△▽



#### 4 素材を作る

テキストや写真などの素材をレイアウトに合う大きさで印刷したり、イラストなどを描いたりする。



#### 5 切り貼りして版を作る

それぞれの素材を、黒とカラー（赤 or 青）の版のどちらで刷るか考えながら、素材を切って貼っていく。



この時トレーヌ台があるとやりやすい。

時にはなかなか細かい作業に！



#### 6 印刷する

リソグラフが使えるところで印刷！



完成!!

印刷できたら情報が新鮮なうちにみんなのところへお届け！

気になった方はぜひ一緒に制作しましょう！

レター制作日はファンファンの facebook ページをチェック！



都内にははははリソグラフが使えるおお店が多数あるほか、公民館などにもあります。

※本事業は「東京アートポイント計画」として実施しています。

〈お問い合わせ〉

「ファンタジア!ファンタジア!—生き方がかたちになったまち—」

事務局メール: info@fantasiafantasia.jp

〈主催〉

東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、一般社団法人うれしい予感



文化でつながる。未来をつなげる。

Tokyo Tokyo  
FESTIVAL

ファンタジック

WANDERING

はじめの1歩

出来事や物事の向こうにいるその人自身と話す

WANDERINGはそういうチャンスです

ファンタジア!  
j f n a j i a

「なせ」と質問しましょう」「なせその活動をはじめたんですか?」「どうしてそれが好きになつたんですか?」●逆に、相手にあなたを質問してもらいましょう

### 用意するもの

- 白地図
- なるべく色の種類が多い文房具
- 貼ったら面白そうなアイテム  
※ 付箋・シール・マスキングテープなど
- 場が和むお菓子や飲み物  
※ 手が汚れるお菓子にはティッシュも忘れずに
- 一緒に質問する仲間  
※ 1人で聞くより2人の方が盛り上がります

### こんなことには気をつけよう

WANDERING は気ままで楽しい思考のお散歩です。

- ・決まったゴールは設定しないでおきましょう。
- ・相手が嫌がる質問は避けましょう。
- ・質問の答えに対して怒ったり反論せず、ユニークな考え方を一緒に楽しみましょう。



1 話したい相手・よく知りたい相手を思い浮かべたら、WANDERING に誘います



3 相手に聞きたいことを質問します  
質問を掘り下げます

5 1時間経ったら  
そろそろ終わりましょう

※ WANDERING のし過ぎはほどほどに



2 白地図を真ん中に置きます  
どうして WANDERING に誘ったか話すところから  
はじめてみましょう



4 質問の回答を、白地図に  
言葉や図でメモしてもらいましょう



### WANDERING を楽しむアイデア

- ・白地図を、何か別のものにたとえてみましょう  
※ たとえば墨田区以外の地域や、心のなか
- ・白地図には、ペンだけではなく付箋やシールも使ってみましょう
- ・BGM をかけてみましょう

\*こんな質問をしてみるのもいいかもしれません ●相手の過去、現在、未来について聞いてみましょう「出身はどこですか?」

「最近は何をしていますか?」 ●具体的な数字で回答できる質問をしてみましょう「お仕事は何年目ですか?」「ここからその場所までは何キロくらいですか?」「好きなアニメは何部ですか?」

## 【WANDERING とは?】

WANDERING には「ふらふら歩く」や「話が逸れる」という意味があります。墨東エリアの細く曲がりくねった道を散歩するように、その人の過去から現在、そして未来についての対話の軌跡を、墨田区の白地図の上に落とし込んでいくことで、本人も気が付かなかった発見を一緒に見つけるのが『WANDERING』です。

墨東エリアで行なっているユニークな活動については知っていても、その人がこれまでどんなことを考えていたのか、墨田区以外ではどんなことをしているのか、その人自身の背景についてはまだまだ知らないことがたくさんありました。

『WANDERING』は、一枚の白地図を囲んでその人自身へ向き合う小さな対話の入り口でもあります。

### ファンタジア！ファンタジア！ - 生き方がかたちになったまち -

多くのアトリエやオルタナティブ・スペースが集まる東京都墨田区北部（墨東エリア）において、点在する文化拠点との連携やアートを通して、「学びの場」を形成するプロジェクト。街そのものの特性とこの街に集う人々がみせる文化的な生態系、そして区内外のアーティストや研究者など専門家のアクションが交わる状況を創造する場としてのラーニングプログラムの実施とそれらの検証から、豊かに暮らすための創造力や地域の文化資源の価値についてやわらかな観点で考えます。

※本事業は「東京アートポイント計画」として実施しています。

Mail = [info@fantasiafantasia.jp](mailto:info@fantasiafantasia.jp)

Web = <http://fantasiafantasia.jp/>

Facebook = 「ファンタジア！ファンタジア！」で検索

〈主催〉

東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、一般社団法人うれしい予感

